



▼方刀とも呼ばれるシイラ。種類はパワーでロッドをひん曲げる



●当日はトリアマがいくつも見られシイラのほかキハダも姿を見せた



●こんなシイラが次々にルアーに飛びついた
▲魚を船に寄せてタモで取り込む



今回の釣り仲間

●取材でお邪魔させていただいたのは、千葉県松戸市の宮下和也さんが幹事を務めるグループ。釣りはルアー・シイラです。



●仲間や家族と沖釣りホリデー! Charter boat fishing with friends and family

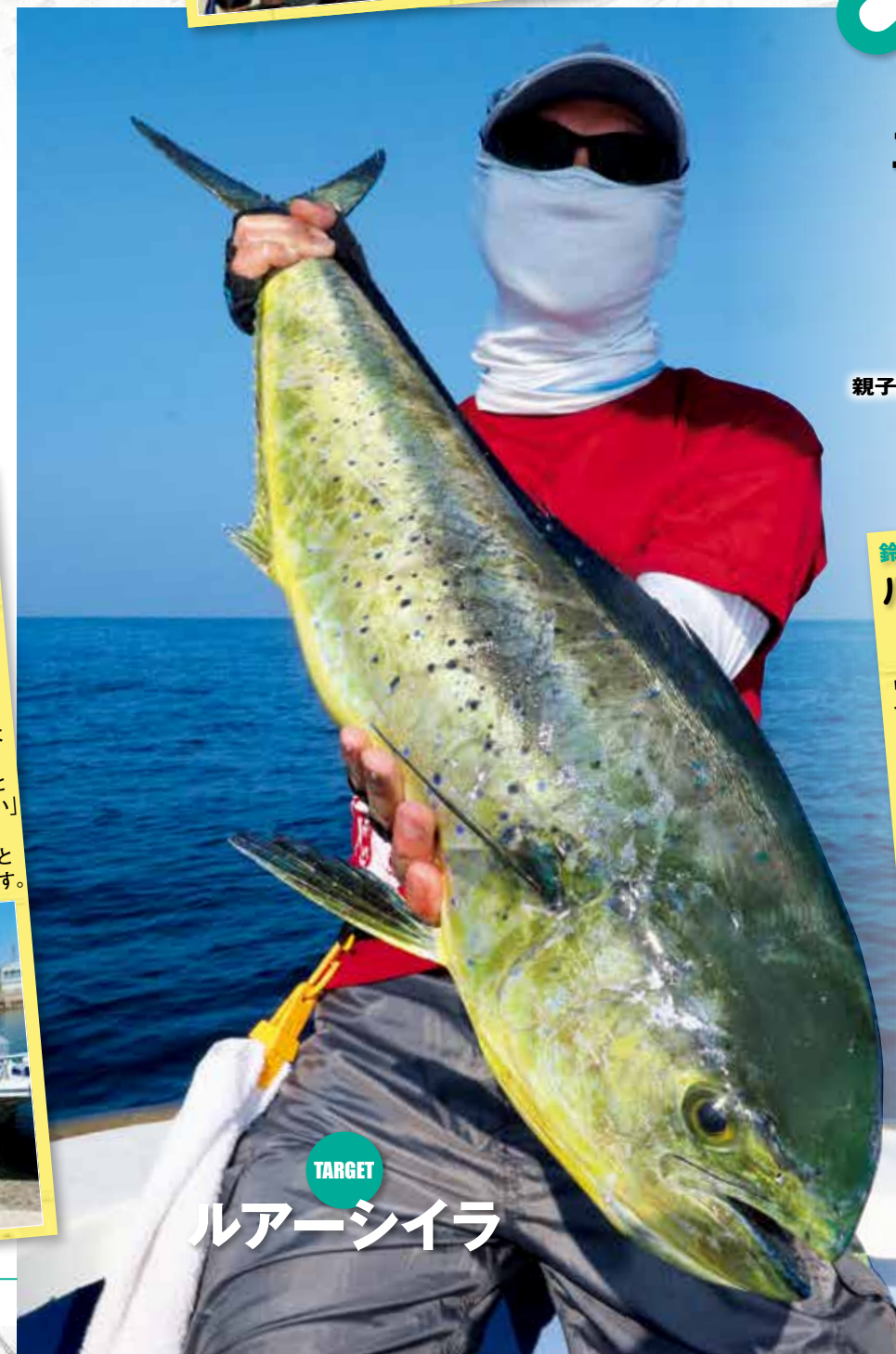
貸し切り船 ナビ

任立専門
●撮影・文 / 古河好夫

【第3回】

三浦半島長井荒崎港 丸伊丸

三浦半島長井荒崎港の丸伊丸は常時2隻体制で対応。温和人柄の親子船長が相模湾の様々なターゲットを存分に楽しませてくれる。エサ釣りはもちろんキハダやシイラなどのルアーも得意とする。



TARGET
ルアー・シイラ

親子船長が相模湾の多彩なターゲットを案内

三浦半島長井荒崎港の丸伊丸の鈴木純一船長が任立船を始めたのは30年以上前のこと。現在は息子の孝幸船長と常に2隻体制で釣り人を楽しませている。孝幸船長も船長歴20年以上のベテランで、釣り船の予約がないときは漁に出るといふ。孝幸船長に秋のおすすめターゲットをうかがうと、まずはキハダとのこと。同船ではコマセ釣り、ルアーの両方で受け付けていて、「今年のキハダは遅れていて、ようやく相模湾内に入ってきた

感じます。なのでこれからがチャンスだと思えますよ」と船長。

8月後半からコマセ釣りが絶好調の相模湾のキハダ・カツオ。秋の風を感じながら夢を追ってみるのも楽しいだろう。

10月いっぱいまではルアーのシイラ&カツオも狙い目。カツオは8月下旬になってナブラがたくさん見られるようになったとのこと。これからは非常に楽しみである。シイラは小型から1メートルオーバーの大型までとにかくいろいろなサイズで、エキサイティングなゲームが楽しめる。9月からはカワハギもスタートする。釣り場は港からすぐの亀城根や城ヶ島沖の水深30メートル前後で、シーズン初期は25〜30センチ級の良型がよく上がるといふ。昨年は今ひとつパツ

鈴木孝幸船長に聞きました! ルアー・シイラ・カツオのコツ

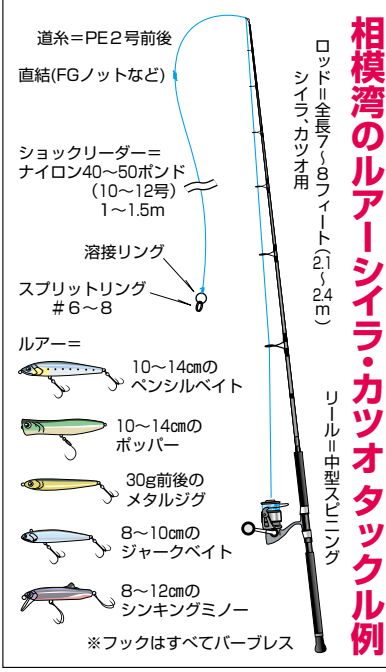
「シイラは基本的にはパヤオ(浮魚礁)やトリアマ、流れ藻などの漂流物を狙っていくのですが、魚を探しているときに突然デカイのが見えたりするんで常に投げられる姿勢がいかががまず大事ですね。ルアーの大きさはシイラがそのときに食っているベイトのサイズに合わせてるのがベストで、トップウォータープラグは小刻みにアクションさせてシイラがルアーを追い始めたら動きを止めないようにしてください。ルアーの動きを止めてしまうと見切られてルアーを追わなくなります。カツオはナブラにメタルジグを投げて棒引きすればOKです。それとキャストイングゲームなので、事故防止のために必ずフックのカエシはプライヤーなどで潰しておいてください」



▲取材後にカツオの様子が最上見。ルアー・シイラ&カツオも狙い目! (写真提供:丸伊丸)

うまいッスよ! シイラフライが絶品です

良型のシイラをキャッチするとすぐに血抜きをし、頭と内臓を取り去り、クーラーにしまっていた幹事の宮下さん。「型のいいシイラはうまいッスよ。フライにしてタルタルソースをかけると絶品です。淡泊な白身の魚なんで色いろな料理に使えて、かは焼きや煮つけなんかにもおいしいです。持ち帰るときに大したもの釣ったらすぐに血抜きをして、臭みが出る内臓を取り去ってしてください」と宮下さん。ハワイのマヒマヒバーガーのパーティといえはシイラのフライ。私も大好きです。



としなかつただけに今年も期待したいところだ。そのほかにはアマダイやオニカサゴもおすすめとのこと。アマダイの釣り場は城ヶ島・鎌倉沖の水深60~100メートルで、30

センチ級を中心に9~11月は40~50センチ級が顔を見せることも珍しくないという。オニカサゴは亀城根・城ヶ島沖の水深80~150メートルを中心に狙い、400~500グラム級主体に日によっては1キロ級が顔を見せることもある。10月下旬からはティップランエギングのアオリイカも面白くリピーターも多いとのこと。



▲開始早々にキャッチした70センチ級



▲当日はトップウォータープラグのほかジャークベイトにもよくヒットした



▼ベイトが小さいときもあるので小型のヘビーウェイトシンキングミノやジグも用意しておきたい



▲ルアー用はPE2~3号を巻いたスピニングタックル。フライのサイズは10~13番を使用



▲色いろなルアーで楽しもう

丸伊丸

MARUIMARU
Nagai-Arasaki Port, Miura Peninsula
☎046-856-4606 (詳細は巻末の情報欄参照)

料金プラン

- 1号船 (最大21名) 8名まで6万8000円、1名増し8500円。平日は5名まで4万5000円、1名増し9000円 (釣り物によって料金の変動あり)
- 2号船 (最大12名) 6名まで5万1000円、1名増し8500円。(釣り物によって料金の変動あり)。なおルアーキハダやシイラの料金については同船宿のホームページ参照。リレー釣りも可。沖揚がり後に乗船場で精算。



利用ガイド

- 【予約方法】**
電話にて人数、希望の釣り物などを伝えて日程を確認
- 【出船時間】**
日の出より出船可能。沖揚がりまで最大7時間
- 【エサ、氷、仕掛けなど】**
いずれも別料金になるが、事前に伝えておけば用意してくれる
- 【レンタルタックル】**
電動リールのセットとルアー用は2000円、手巻きリールのセットは500円～
- 【集合場所】**
乗船場に集合。車は隣接する駐車場に停める
- 【備考】**
新ホームページアドレス=
<https://maruimaru.net/>
ホームページからLINE オフィシャルサイトにアクセスして予約も可能



【港から船宿までの道順】



【釣り物カレンダー】

| 釣り物 | シーズン(月) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---------|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| シイラ・カツオ | | | | | | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| キハダ | | | | | | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| カワハギ | | 🐟 | 🐟 | | | | | | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| ライトイリ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| オニカサゴ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | | | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| アマダイ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | | | | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| メバル | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | | | | | | | | | |
| マダイ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| アジ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 |
| マルイカ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | | | | | |
| ヤリイカ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | | | | | | 🐟 | 🐟 |
| アオリイカ | | 🐟 | 🐟 | 🐟 | 🐟 | | | | | | 🐟 | 🐟 | 🐟 |



幹事の宮下和也さんに聞きました!
船長の目が本当によくて、毎回満足のいくシイラゲームを楽しませてもらってます!

「丸伊丸は10年以上前から利用していますが、船長の目が本当によくて次つぎにシイラを見つけてくれるので、乗船するたびに楽しいゲームを満喫しています。あといつも船長が船をていねいに洗っているのがきれいな点もいいですね。船長は2人ともに明るく優しい人柄なので、仲間たちも大のお気に入りの船宿です」と宮下さん。
当日は8名で乗船し、船長にチャミング用のイワシをバケツ2杯分用意してもらった1人あたりの料金は1万3000円。ご協力ありがとうございました。



釣りは亀城根周辺で、年内は300〜800グラム級の数釣りが楽しめます。年明けから4月ごろまでは1キロオーバーの大型が期待できる。
また10月から模様がよくなれば沖ノ瀬や洲ノ崎沖などのヤリイカへも出船。釣ったヤリイカをエサにマダイやヒラメ、ブリなどを狙うことも可能だ。
孝幸船長は大の釣り好きでエサ釣り全般のほか、ルアーにも精通。船長がルアー釣りに造詣が深いとあって同船はルアーファンには58キロというモンスター級

ルアーやフライにシイラが連発!

丸伊丸を訪れたのは8月22日のこと。千葉県松戸市の宮下和也さんが幹事を務めるグループがルアーシイラで仕立てた船にお邪魔させていただいた。
当日はチャミング用(まきエサ)の生イワシを船のイケスに積み込み5時に発船。約1時間ほど西側に走った所にあるバヤオ(浮魚礁)狙いからスタートする。
孝幸船長の話では、今年の相模湾はシイラの数がとても多くファンにとってはたまらない状況とのこと。その言葉どおり早々にヒットして70センチ級のシイラが海面を割って出た。
1尾ヒットするとその周りにいたシイラがほかのルアーに次つぎと襲いかかり、リールのドラッグが悲鳴を上げる。万力とも呼ばれるシイラ。そのファイトは強烈で飛んで走って暴れまくる。船上はまさにお祭り騒ぎ状態だ。

次で、見ていてなんとも楽しい光景である。50〜80センチ級のシイラが次つぎに取り込まれ、皆さんは大喜び。
次のバヤオでは船から散水して船長がイワシをまき、シイラの群れを船のすぐ脇に集める。ここで登場したのがフライフィッシングのタックル。小魚を模したフライをキャストし海面を引っ張ると、シイラがガボツと襲いかかるのが見えた。
フライのタックルでのヤリトリはかなりスリリングで、「1メートル級を掛けちゃうと、ハッキリいつてつらくなります」と幹事の宮下さん。
その後も流れ藻などの漂流物やトリヤマ狙いでシイラが次つぎに飛び出し1メートル級も登場。中盤戦を過ぎたころにはトリヤマ狙いでキハダが姿を見せたが残念ながらヒットには至らなかった。
とはいえ、皆さん実によく移動中に見えたマンタやイルカ、大きなアオサメが大興奮。なんとも夏のシイラゲームらしい一日となった。
シイラはそこかしこにいて今はキハダも上向きそうな相模湾。シイラと遊びながらキハダのチャンスをつかおうのもありルアーファンにおすすめです。